せいけん　詩集　第百二十篇

近藤せいけん

「ターチの挑戦　その3」

本厚木駅前のベンチに　腰掛けて　心の響きの
会話を続けている　通りをゆく人には　何も聞こえない
「天神さま　それでは私の願い
　どうしたら実現出来るのですか」
「どうしたら　この苦境から脱出できるのですか・・」
少し間があいてから　返事が響いた
「頭で否定的なこと　マイナスな事を考えていると
虜になってしまうよ」
「おまえの若い情熱じゃ　やる気じゃよ
今のおまえであれば　全ての望は　何でも実現できる」
「自分の望むものに　チャレンジ　挑戦じゃよ」
「ほら　立ち上がって　前へ前へ　進むのじゃ
必ず望のものに　出逢うはずじゃ」
「ターチ　良い名じゃ」
「おまえの人生はおまえ自身が
作るもの　おまえ次第　楽しめ　あははは」
若者　ターチは元気が出てきた　すくっと　立ち上がり
「よし　やるぞ　精一杯　生きるぞ」
「おれの人生　このおれの手で作るぞ」
若者の挑戦が　始まる